

# 「2024年問題」を考える

## ジェネレーションパスの岡本社長に聞く

前号に続き、ネットなどについて聞いた。販売事業などを手がけ（聞き手は本紙記者・山崎晋）

◇

の岡本洋明社長に、物——「2024年問題」を意識したのは。流の「2024年問題」が引き起こす通販業界への影響や、今後を見据えた事業転換の経緯は、24年以前からずっと



と考えていた。当社の場合、3年ほど前から海外の工場などを使って、自社の商品を作るようになってきている。もう、こうした問題が背景にあったからだ。つまり、より上流過程に行かなければ利益をとれなくなり、（物流費などの）値上げに負けてしまうということだ。商品構築をしたり、PBを独自で開発したり、直接貿易をしたり、素材開発をするなど、こちらが上流過程に入り込むような企業努力をすることが重要になる。

従来のような、仕入

投資することが重要に

なる。特に素材関係でい

称で展開している。コ

もでも安く仕入れをで

業者では『LINE』

思う」（おわり）

なっていくだろう」

——具体的には。

「当社の場合、数年

Ⓧ

前から中国やベトナム

の工場に積極的に投資

を行い、新商品や新素

材開発を進めてきた。

今では体制が整ってき

たこともあり、非常に

軌道に乗っている。卸

くと、原材料価格の値

上げや為替の影響を受

けてしまう。そうした

の強度や速乾性などの

機能を合わせ持ってい

て、芯の素材を変える

ことで、断熱性を強め

たりすることでもでき

る。これらの素材開発

の努力もあって、前述

きるようにならない

と、事業運営としては

ますます難しくなる」

置き配の普及

に向け課題も

——そのほかに改善

していくべき点とは。

「物流で一番の問題

となっているのは、不

なる。この再配達の手間

コストだと思う。この

問題が解決されない限

りは前に進めないだろ

う。コンビニエンスス

トアなどでの受け取り

サービスも行われては

いるが、一つの店にそ

こまでの広大な（保管

スペースがあるわけで

はない。

加えて、コロナ禍と

なってから、置き配サ

ービスが広がってい

き、ある程度状況は良

くなってきたようにも

見えるが、こちらも改

善すべき点はまだまだ

ある。紛失や盗難、ま

た、置いた場所によっ

を使った事前の在宅確

認なども始まっている

ては、日中では問題が

る。新しい技術の導入

なくとも明け方は夜露

には最初は時間がかか

で濡れてしまうなど、

様々なケースがあるか

らだ。

——技術革新が鍵に

なるということか。

「当然、今までと同

じようにやっていくだ

けではだめなので、

「変化は不変」という

考え方ができるように、

配送事業者だけでなく、

我々、通販に関わ

っている人間も変わっ

ていかならない時代に取

り残されてしまうだろ

う。あまり、目先の利

益だけを追うようなこ

とはせず、長期的な視

野に立っていきたくい

思う」（おわり）

（おわり）

# 自社でもモノづくりを

## 上流過程に入る努力が必要

先としても、国内では

われているようなD2

Cの考え方で取り組ま

ないといけない時期に

が来ていてはないか

で、今度は欧州の家具

メーカにも納品する予

定がある。

やはり、工場でのモ

「一本の糸の中に芯

（コア）としてポリエ

ステル繊維などを使用

し、その周りにコット

ン繊維を巻き付けた独

自の素材となる。異な

る繊維を掛け合わせた

ハイブリット素材とし

て『コアヤーン』の名

業に卸展開ができるよ

うになった。

そのほかにもそもそ

も必要だ。今まで商社

などを介して商品を調

達していたものを、直

接工場と契約するよう

になってきたようにも

見えるが、こちらも改

業者では『LINE』

思う」（おわり）

（おわり）

（おわり）

（おわり）

（おわり）

（おわり）

（おわり）

（おわり）